

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-53C	12-136	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Synergism between obesity and alcohol in increasing the risk of hepatocellular carcinoma: a prospective cohort study. 肝がんのリスク増加に関する肥満とアルコールの交互作用：前向きコホート研究		
執筆者		
Loomba R, Yang HI, Su J, Brenner D, Barrett-Connor E, Iloeje U, Chen CJ.		
掲載誌		
Am J Epidemiol. 2013 Feb 15;177(4):333-42.		
キーワード		
アルコール性肝障害、地域住民、脂肪肝、肝がん、非アルコール性脂肪肝、前向きコホート		
要旨		
目的： 肥満とアルコールは男性の肝不全死のリスク上昇において交互作用を有する。本研究では、両者が男女の肝がん（HCC）リスクにおいて相乗的または相加的な交互作用を有しているかを検討した。		
方法： 肝疾患調査を行った台湾の7地域住民23,712人（男性50.3%）を前向きに11.6年追跡し、HCC発症を確認した。		
結果： 平均年齢47（標準偏差10）歳、body mass index 24（3）kg/m ² 。追跡期間275,126人・年の間に、305例のHCC発症が確認された。単変量解析では以下の項目が統計的に有意（P<0.05）なHCC予測因子であった：年齢、男性、飲酒、喫煙、ALT（GPT）上昇、HBs-抗原陽性、HCV抗体陽性、糖尿病。飲酒と肥満（BMI≥30）とはHCC発症リスクに交互作用的な関係を有しており、それはモデルの調整無し（ハザード比7.19、95%信頼区間3.69、14.00、P<0.01）、調整有り（調整項目：年齢、男性、喫煙、ALT、HBs-抗原陽性、HCV抗体陽性、糖尿病、ハザード比3.82、95%信頼区間1.94、7.52、P<0.01）に関わらず同様であった。交互作用による相対過剰リスク、寄与割合、交互作用インデックスはそれぞれ4.83、0.67、4.53であった。この数値はアルコールと肥満との間に相乗的な交互作用があることを示していた。		
結論： 肥満とアルコールはHCC発症リスクを相乗的に上昇させる。		